

各関係機関長 殿
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

平成22年度農作物病害虫発生予察情報について

平成22年度農作物病害虫発生予報第4号を発表したので送付します。

平成22年度農作物病害虫発生予報第4号

平成22年7月15日
徳島県

・普通作物

早期水稻

穂いもち

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 7月前半の巡回調査では、葉いもちの発生圃場率が15.8%、発病度が0.4であり、ほぼ平年(24.5%、1.4)並の発生である。

(2) 7月9日発表の1ヶ月予報では、気温は高く、降水量は多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 葉いもちの発生が多い圃場では、使用基準を確認の上、液剤による薬剤防除を出穂直前までに行なう。

紋枯病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 7月前半の巡回調査では、発生圃場率が26.3%、発病株率が0.7%であり、ほぼ平年(29.8%、2.3%)並の発生である。

(2) 水稻の生育は平年並である。

(3) 7月9日発表の1ヶ月予報では、気温は高く、降水量は多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 今後の発生に十分注意し、基幹防除を励行する。発生が多い場合には出穂直前防除を追加して、上位葉へ薬剤が十分かかるように散布する。

セジロウンカ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の巡回調査では、発生圃場率が89.5%、株当たり虫数が0.75頭であり、平年(54.1%, 0.40頭)と比べてやや発生が多い。
- (2) 7月9日発表の1ヶ月予報では、気温は高く、降水量は多いと予想されており、発生に中立的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の発生に十分注意し、基幹防除を励行する。特に、苗箱処理剤による防除を行っていない圃場では、適期防除に努める。

トビイロウンカ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 予察灯での飛来調査では、誘殺を確認していない。
- (2) 7月前半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が1.2%、株当たり虫数が0.00頭)。
- (2) 7月9日発表の1ヶ月予報では、気温は高く、降水量は多いと予想されており、発生に中立的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の発生に十分注意し、基幹防除を励行する。特に、苗箱処理剤による防除を行っていない圃場では、適期防除に努める。

コブノメイガ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の巡回調査では、発生圃場率が36.8%、被害株率が4.3%であり、平年(13.8%, 0.5%)と比べて発生が多い。
- (2) 7月9日発表の1ヶ月予報では、気温は高く、降水量は多いと予想されており、発生に中立的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 防除が遅れると幼虫による葉の食害がすすむので、今後の発生に十分注意し適期防除に努める。

斑点米カメムシ類(7月15日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の水田周辺雑草地における生息調査(1地点当たり捕虫網20回振り)では、15地点のうち13地点で生息を確認した。捕獲地点率は86.7%、1地点当たりの捕獲虫数は7.8頭であり、平年(44.6%, 6.1頭)と比べてやや発生が多い。多発生地域も散見される。
- (2) 7月9日発表の1ヶ月予報では、気温は高く、降水量は多いと予想されており、発生に中立的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 斑点米カメムシ類の生息場所となる周辺雑草を、水稻出穂の10～15日前までに除去・処分する(但し、出穂直前の除草は本田内に斑点米カメムシ類を追い込むことになるので行なわない)。
- (2) 出穂が早い圃場に集中して飛来する傾向があるので、周辺雑草地や本田での発生に注意し、発生を認めたら早急に防除を行なう。
- (3) 薬剤散布については各薬剤の登録内容を確認のうえ、液剤等で出穂期と乳熟期(出穂後約2週間頃)の2回防除を行なう。

普通期水稲

いもち病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 7月前半の巡回調査では、発生圃場率が6.7%、発病度が0.1であり、平年(34.2%、2.7)と比べて発生が少ない。

(3) 7月9日発表の1ヶ月予報では、気温は高く、降水量は多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 苗箱処理剤にいもち病対象薬剤を用いていない圃場においていもち病の発生を認めた場合は、速やかに薬剤防除を行なう。また、その後も病勢の進展が見られるようであれば追加防除を行なう。

(2) 葉いもちの発生が多い圃場では、薬剤の登録内容を確認の上、粒剤は出穂10日前までに、液剤は出穂直前までに防除を行なう。また、出穂後曇雨天が続いた場合には穂揃期にも防除を行なうとともに、穂肥の施用量は控えめとする。

紋枯病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 7月前半の巡回調査では、発生圃場率が10.0%、発病株率が1.9%であり、平年(22.3%、4.9%)と比べてやや発生が少ない。

(3) 7月9日発表の1ヶ月予報では、気温は高く、降水量は多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 今後の発生に十分注意し、基幹防除を励行する。発生が多い場合には出穂直前防除を追加して、上位葉へ薬剤が十分かかるように散布する。

セジロウンカ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 7月前半の巡回調査では、発生圃場率は90.0%であり平年(53.6%)と比べて高いが、株当たり虫数は0.51頭でありほぼ平年(0.52頭)並の発生である。

(2) 7月9日発表の1ヶ月予報では、気温は高く、降水量は多いと予想されており、発生に中立的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 今後の発生に十分注意し、基幹防除を励行する。特に、苗箱処理剤による防除を行っていない圃場では、適期防除に努める。

トビイロウンカ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 予察灯での飛来調査では、誘殺を確認していない。

(2) 7月前半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期には、発生圃場率が0.6%、株当たり虫数が0.00頭)。

(3) 7月9日発表の1ヶ月予報では、気温は高く、降水量は多いと予想されており、発生に中立的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)今後の発生に十分注意し,基幹防除を励行する。特に,苗箱処理剤による防除を行っていない圃場では,適期防除に努める。

斑点米カメムシ類(アサスジカスミカメ,ホソハリカメムシ,クモヘリカメムシ等)

1)予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で,発生程度は「中」

2)予報の根拠

- (1)7月前半の水田周辺雑草地における生息調査(1地点当たり捕虫網20回振り)では,28地点のうち18地点で生息を確認した。捕獲地点率は64.3%,1地点当たりの捕獲虫数は5.3頭であり,平年(51.2%,8.8頭)よりやや発生が少ない。
- (3)7月9日発表の1ヶ月予報では,気温は高く,降水量は多いと予想されており,発生に中立的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)斑点米カメムシ類の生息場所となる周辺雑草を,水稻出穂の10~15日前までに除去・処分する(但し,出穂直前の除草は本田内に斑点米カメムシ類を追い込むことになるので行なわない)。
- (2)出穂が早い圃場に集中して飛来する傾向があるので,周辺雑草地や本田での発生に注意し,発生を認めたら早急に防除を行なう。
- (3)薬剤散布については各薬剤の登録内容を確認のうえ,液剤等で出穂期と乳熟期(出穂後約2週間頃)の2回防除を行なう。

サツマイモ

食葉性害虫(ハスモンヨトウ,シロイチモジヨトウ等)

1)予報内容

発生量 平年並(前年並)で,発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)7月前半の巡回調査では,食葉性害虫による被害発生圃場率が94.1%,被害度が10.4であり,平年(75.5%, 3.8)と比べてやや発生が多い。
- (2)7月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査4圃場の平均)は,ハスモンヨトウ,シロイチモジヨトウともにほぼ平年並で推移している。
- (3)7月9日発表の1ヶ月予報では,気温は高く,降水量は多いと予想されており,発生に中立的な気象条件である。

[フェロモントラップ誘殺数]

月半旬	ハスモンヨトウ					シロイチモジヨトウ				
	2010年	2009年	2008年	2007年	平年	2009年	2008年	2007年	2006年	平年
6.3	16	31	23	23	35	6	9	14	17	21
6.4	79	28	33	23	34	12	22	24	10	25
6.5	85	63	35	46	36	8	20	24	6	17
6.6	41	84	28	57	56	18	13	16	19	18
7.1	41	70	35	54	51	24	37	43	27	30
7.2	78	44	32	43	48	9	71	24	59	76
7.3		38	20	39	53		42	62	117	110

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので,若齢幼虫時に徹底防除を図る。

ハダニ類

1)予報内容

発生量 平年並(前年並)で,発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)7月後半の巡回調査では,発生圃場率が58.8%,寄生葉率が4.6%であり,平年(32.2%, 6.9%)と比べて発生圃場率が高い。
- (2)7月9日発表の1ヶ月予報では,気温は高く,降水量は多いと予想されており,発生に中立的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には,充分な量の薬液を散布する。
- (2)同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

果樹

カンキツ

ミカンハダニ

1)予報内容

発生量 平年並(前年並)で,発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)7月前半の巡回調査では,発生圃場率は70.0%でほぼ平年(64.2%)並であるが,寄生葉率は8.8%で,平年(13.9%)よりやや低い。
- (2)7月9日発表の1ヶ月予報では,気温は高く,降水量は多いと予想されており,発生に中立的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、充分な量の薬液を散布する。
- (2)ミカンハダニは薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統薬剤の連用は避ける。

野菜

夏秋ナス

うどんこ病

1)予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)7月前半の巡回調査では、発生圃場率が22.2%、発病葉率が0.6%であり、ほぼ平年(24.1%、3.0%)並の発生である。
- (2)7月9日発表の1ヶ月予報では、気温は高く、降水量は多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)窒素質肥料の過用を避ける。
- (2)落葉した罹病葉は適切に処分する。
- (3)病斑が進展し葉の表面が菌叢で覆われると、薬液が弾かれ防除効果が劣ってくるので、薬剤散布にあたっては、展着剤を加用する。
- (4)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

アザミウマ類

1)予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)7月前半の巡回調査では、発生圃場率が66.7%、寄生葉率が2.7%、被害果率が0.0%であり、ほぼ平年(59.9%、6.2%、1.8%)並の発生である。
- (2)7月9日発表の1ヶ月予報では、気温は高く、降水量は多いと予想されており、発生に中立的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。葉表より葉裏への寄生が多いので、散布むらのないように丁寧に散布する。
- (2)同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

アブラムシ類

1)予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)7月前半の巡回調査では、発生圃場率が22.2%、寄生新梢率が0.2%であり、ほぼ平年(7.4%、0.2%)並の発生である。
- (2)7月9日発表の1ヶ月予報では、気温は高く、降水量は多いと予想されており、発生に中立的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、防除の際には、葉裏に充分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (2)同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

ハダニ類

1)予報内容

発生量 平年並(前年並)で,発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)7月前半の巡回調査では,発生圃場率が22.2%,寄生葉率が1.0%であり,ほぼ平年(34.0%,4.0%)並の発生である。
- (2)7月9日発表の1ヶ月予報では,気温は高く,降水量は多いと予想されており,発生に中立的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類は大半が葉裏に寄生しているので,防除の際には,葉裏に十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (2)同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

.その他

- 1)集中的な降雨が続いており,滞水している圃場も見受けられます。排水対策を施すとともに,病害蔓延防止のために,雨のやみ間に予防的な薬剤散布を行なってください。
- 2)薬剤の使用にあたっては必ず使用基準を遵守し,周辺作物等へ飛散しないようにして下さい。
- 3)水田に薬剤を使用したときは,7日間以上止水して下さい。

予報内容の表示

発生程度:甚>多>中>少>無

発生量:多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病虫害防除所
テレホンサービス:0883(26)1199
U R L : <http://www.green.pref.tokushima.jp/boujyosyo/>

病虫害の発生予察情報,発生状況,防除法等をお知らせしています。